

木製等の水制工による実験的取り組みについて

1 背景

近年の洪水により、護岸の前面が深く掘れ、護岸が損傷するなどの状況が発生していることから、今年度、簡易な工法により、このような現象を抑制することかできないのか、実験的取り組みを実施することとしている。

2 実験的取組の内容

簡易な水制工を部分的に設置することとしており、具体的には以下を組み合わせる。

なお、追跡調査を通じて、河川環境や土砂移動への影響も含めて確認し、悪影響が認められた場合は、速やかに撤去する。

【組み合わせ】

- (1) 護岸の前面を木杭等で保護
- (2) 掘削により一部を残した中州については、必要に応じて木杭等で周囲を部分的に保護

※水制工・・・水の流れを川の中央に向けたり、水の勢いを弱めて護岸付近の深掘れを防ぐなど、護岸、堤防を守るための施設

3 実験的取り組みの対象

今年度、中州除去する次の区間で実験的に実施。

- (1) 鴨川 北大路橋～出雲路橋間 L＝約0.7 km
- (2) 高野川 松ヶ崎橋～馬橋下流 L＝約0.7 km

【水制工の組み合わせイメージ】

